

(ちば経済トレンド)

千葉県では、全年齢層で人口が増加した市が増えた一方、戦後初めて、高齢化率が40%超や高齢者の減少が始まった町が出現するなど、人口動態の二極化が鮮明化

10月26日、総務省統計局から「平成22年国勢調査人口等基本集計」が公表された。公表データから千葉県及び県内54市町村の男女・年齢別人口数等を分析すると、戦後初めて高齢化率が40%超となった先や高齢者の人口が減少に転じた先が出現するなど、高齢化の進行に大きな動きが見られるとともに、各年齢層で人口増加が続く市と、高齢化や人口減少が進む市町村との二極化が、一層鮮明化しつつあることがわかった。

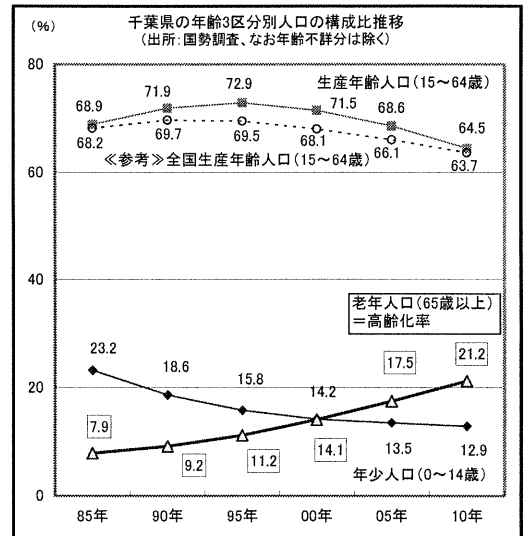
千葉県全体の高齢化率(65歳以上の老年人口÷総人口)は、2010年時21.2%と、5年前の前回調査より3.7ポイント上昇した。その間、高齢化率が10%台の市町村数は10市に減り(前回調査比▲16)、同20%台が33市町村(同+12)、同30%台が10市町(同+4)と増え、御宿町では40%台(40.6%、05年時35.5%)となった。

また、年齢3区分別人口(※)の動態をみると、全区分で増加が見られた市町村は8市と前回調査比+5市増えた。総人口が最も増えたのは船橋市の同+39千人だが、開発の進むつくばエクスプレス沿線の柏市(同+23千人)、流山市(同+11千人)や、千葉ニュータウン地区の印西市(同+7千人)、白井市(同+7千人)、アクアライン通行料金値下げの好影響による木更津市(同+7千人)などで増えている。

一方、長南町では、総人口が減少(前回調査比▲750人、減少の内訳は自然減▲520人、社会減▲230人と推計)するなか、老年人口も減少した(同▲18人)が、これは千葉県では、戦後初めての事象である。5年後の次回調査では、団塊の世代(1947~49年生)が65歳以上となるため、このまま老年人口減少が継続する可能性は低いものの、若年層の転入等社会増が期待しにくい市町村では、高齢化の進行過程において、老年人口の減少が発生する可能性が高い。

こうした事情を踏まえ、県内市町村では、地域の人口動態を年齢別に把握し、現実的な将来推計人口を基にした行政計画の策定・実施が望まれる。(経済調査部長 井上立雄)

(※) 年齢3区分別人口：14歳未満=年少人口、15~64歳=生産年齢人口、65歳以上=老年人口



千葉県内54市町村の年齢3区分別人口動態の推移

人口動態区分	人口動態 (年齢3区分別人口の増減状況)	総人口		年少人口 (14歳未満)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)		市町村数			2010年時 人口数 シェア
		増加	減少	増加	減少	増加	減少	増加	減少	2000年	2005年	2010年	
高齢化ステージ0	総人口が増加。年齢3区分のすべてが増加している状態	○		○		○		○		2	3	8	1,749千人 28.1%
高齢化ステージ1	総人口は増加しているが、年少人口や生産年齢人口の一部が減少している状態	○		○	●	○	●	○		21	14	6	716千人 11.5%
高齢化ステージ2	総人口は増加しているが、年少人口と生産年齢人口がともに減少している状態	○			●		●	○		5	9	9	2,415千人 38.8%
高齢化ステージ3	総人口が減少。多くの市町村では、老年人口は増加しているが、年少人口と生産年齢人口が減少している状態		●	○	●	○	●	○		26	28	30	1,328千人 21.4%
高齢化ステージ4	総人口が減少。老年人口の減少が始まり、年齢3区分全てが減少している状態		●		●		●		●	0	0	1	9千人 0.1%

増減している市町村数	2000年	28	26	2	52	25	29	54	0
	2005年	26	28	9	45	11	43	54	0
	2010年	23	31	15	39	8	46	53	1

出所: 国勢調査  
(合併等調整し2010年時の市町村数で比較)